

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197100027		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	砂川市空知太西1条3丁目3番12号		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	平成26年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197100027-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197100027-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ほとんどの入居者様は、2週間に1度協力医療機関医師の往診を受けており、事業所の看護師が中心となり、医師との連携を図り、健康管理を行っている為、入居者様の安心に繋がっている。
- ・年間を通して季節に応じた行事の計画を立て、お花見、海風浴、りんご狩り、ショッピング等外出で気分転換や四季を感じていただいている。
- ・近隣の保育所との交流があり、保育所の七夕祭りに入居者様が参加したり、事業所の中庭を利用し交流の場となり、入居者様の楽しみの一つとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームすずらん」は、砂川市郊外の自然環境に恵まれた静かな住宅街に立地している。広々とした敷地にある中庭を中心に、同法人が運営する別のグループホームがあり、日常的に交流を行いながら災害時などの協力関係を結び、連携して運営を行っている。施設長は、外部評価が2年毎の基準に達しても毎年評価を受けて外部から多くの情報を取り入れてより良い運営やケアにつなげて行くと共に、若い職員が次代をになって行ける産業にして行きたいと考えて常に向上心を持って取り組んでいる。今年度は、前回の目標として掲げていた近くの保育所との交流も新たに始まり、子供達が散歩で事業所の庭を訪れる他、夏祭りやハロウィンに来訪したり、絵のプレゼントを持参するなど、初年度から多くの交流が行われている。また、今夏は新たな外出行事として留萌方面の海に全員で出かける事が出来たことで職員の自信にもつながり、積極的に多くの外出計画を立てられ実施されている。事業所の夏祭りには、地域住民と共にボランティアによる歌や太鼓の披露、打ち上げ花火など、楽しい時間を過ごしている。職員はコミュニケーションを深めながら、各利用者が笑顔で穏やかな日々を過ごせるように温かなケアを行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(1号館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の休憩室、事務所、名札の裏に理念を掲載し、実践できるよう努力している。また、入社時に理念を話し、理解している。	「地域との交流を深め、馴染みの環境を作れるように支援する」という法人共通の地域密着型サービス理念を基に、今年度よりユニット目標を作成して実践につなげている。職員は、利用者とかかわりの中で、理念を意識したケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のゴミ拾いに参加したり、散歩の際に挨拶を交わしている。また、町内会長に声を掛け、事業所の行事や、避難訓練を見ていただき、交流している。近所の保育所の園児と入居者との交流がある。	今年度は、近くの保育所との交流が新たに始まり、日頃の交流の他、夏祭りやハロウィン、事業所の畑での芋掘りを利用者と一緒に楽しんでいる。また、歌や子供太鼓のボランティアも事業所の夏祭りに来訪しており、花火大会と共に利用者の楽しみ一つになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	砂川市の看護学生の実習を受け入れ、認知症の人の支援や、コミュニケーションの方法について学んでいただき、地域の看護に活かせるよう努めている。また、運営推進会議にて現在の問題点や課題等報告し、理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にて、入居者の近況報告と、外部評価の結果の報告、行事や研修報告を行い、意見交換や、助言をいただき、運営に活かしている。	同法人事業所と合同で2か月毎に開催し、外部評価や避難訓練結果、職員研修などの事業所報告が行われている。町内会役員からは、多くの地域の情報を貰っている。家族の参加は代表者1名のみで、全家族への会議案内と議事録の送付は行われていない。	全家族に会議案内と議事録を送付する事で、運営推進会議に対する家族の理解が、更に深められるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長、管理者が、日頃から市役所の福祉課、介護保険課へ、事業所の報告や相談を行っている。また、市役所の担当者からの通達や確認等、連絡を取っている。運営推進会議には同町内会の市議会議員にも参加していただいている。	施設長や管理者は、電話やメールを活用しながら、課題に応じて担当者に相談や確認を行っている。市役所の方から、入居相談を受ける事もある。生活保護課担当職員とは、利用者の状況に応じて連絡する機会も多く、すぐ相談できる関係が出来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、夜間帯は施錠を行っているが、基本的には入居者の自主性を尊重し、安全を確保しながら日中は施錠や身体拘束を行わない支援を行っている。職員は、身体拘束をせずどのように入居者様の安全を確保するか話し合い支援を行っている。	法人として、「禁止の対象となる具体的な行為」11項目の身体拘束廃止マニュアルを整備している。12月の外部研修後に勉強会を行い、全職員で「禁止の対象となる具体的な行為」の内容を再確認する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の支援の中で、職員の入居者様に対する態度、言葉遣い、介助方法で不適切な所がないか、管理者を含めて話し合い、虐待防止に努めている。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は勉強会を行っていないが、以前行い、職員は制度の理解をしている。また、権利擁護を利用している入居者様がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や施設見学の際に入居までの流れや施設での生活について説明し、ご家族の抱えている施設のイメージとの差がないようにご家族の不安や疑問等も聞き、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談の窓口を設け、契約時に説明している。また、ご家族の面会時、ケアプランの説明時等にも要望、意見を聞き、対応できるよう努めている。	家族の来訪時や電話などで、意見や要望を聞き取るように配慮している。家族との会話は「ご家族との連絡記録」に記載している。今年度、家族アンケートを実施する予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議や、日常の場面で、職員の意見や提案を話せる機会がある。	毎月の会議やユニット会議で、職員の意見交換が行われている。管理者は、各職員の状況に応じて随時声かけをして、個別に話をする機会を設けている。利用者の状況により、職員から危険な場所の提案を受けて、家具の配置を変更した事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者は、勤務状況や意欲について把握している。また、業務の負担の軽減を図れるような取り組みや、勤務希望をできる限り叶えるなどして職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧し、参加を促したり、希望者を募っている。また、内部での勉強会を行い、知識や介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は同業者との交流があまりなかった為、研修会や、交流会を通じて職員のスキルアップに努めていきたい。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、本人、家族より情報収集を行い、入居時からスムーズに支援が行えるよう、本人の情報を把握し、支援に努めている。また、不安なく入居ができるよう、ご家族、本人とも話し合い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点で、家族の困っている事に耳を傾け、グループホームのメリット、デメリットについても説明を行っている。また、入居後も家族との関係が途切えないよう、協力を依頼したり、日頃の様子を伝え、把握してもらうなど関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していた事業所や、家族からの情報をもとにその時必要な支援を見極め支援に努めている。本人、家族の要望にできる限り耳を傾け、以前の生活習慣を継続できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションを大切にし、入居者様と一緒に調理や、掃除を行っている。また、本人の自主性を尊重し支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を家族に代弁し、外出など家族の行える支援は、協力をいただく事がある。また、定期受診などを家族に依頼し、日々の様子を把握していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を継続し、信仰している教会への外出や、居室でのお参りをゆっくり過ごせるよう配慮している。家族の協力のもと、馴染みの美容室やお店へ出掛けている。	近所に住んでいた知人が遊びに来る利用者もあり、来訪時には家族と同じように歓迎して、再来訪につながるよう配慮している。職員と一緒に、馴染みの美容室やコンビニに買い物に出かける事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士が、自然と会話している。また、孤立しがちな入居者様には職員が間に入る、または職員が話相手になるなどしている。共有のスペースを活用し、入居者、職員、家族が交流を図れるよう努めている。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者等が、転居先の関係者に入居時の情報を提供し、本人に最善のサービスが継続されるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動、表情から本人の意向や希望の把握に努め、情報を共有し、職員間で支援について話し合っている。また、会議等でも検討している。	日々得られた利用者の思いや意向、変化は、申し送りやユニット会議で伝えて職員間で情報を共有している。基本情報用紙の書式変更に伴い、今後は定期的に情報の蓄積を行う予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子を入居時に本人家族より情報収集し、職員間で共有している。入居後もできるだけ暮らし方が継続できるよう本人を尊重している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や、申し送りを通して職員間で情報を共有している。また、健康状態に関しては、看護師とも相談し、対応を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング会議を行い、職員間で意見を出し合い、支援方法について話し合っている。本人や家族の意向も含め、その時の優先的な支援を検討し、介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、家族や本人の意向を聴き取り6か月毎に更新計画を作成している。介護計画を意識して日々の記録を行っているが、記録方法を更に検討して、日々のケアや介護計画の見直しに活かせるような記録を行う意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し、気づきを職員間で話し合い、把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族のニーズに応じて、買い物代行・同行、または、美容室への付き添い。受診の付き添いなどを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所との交流があり、入居者様の楽しみの一つともなっている。美容室の出張サービスなども利用し、入居者様が安心してできるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度協力医による往診を受けている。また、希望に応じて、かかりつけ医への受診等家族と協力しながら入居者が安心して医療を受けられるよう努めている。また、日常の様子は事業所の看護師が把握し、支援している。	かかりつけ医の継続は可能であるが、現在は殆どの利用者が協力医療機関の往診を受けている。専門医の受診支援は家族が行っているが、状況に応じて看護師が同行する事もある。受診状況は個別に記録している。	

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理や、体調変化の際には、事業所の看護師に連絡・相談をし、指示を仰いでいる。また、事業所の看護師とは24時間連絡が取れる体制となっており、必要に応じて受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者の情報を病院側に提供している。また、事業所の看護師や管理者は入院中の状況や病状を病院関係者と情報交換し、退院後の支援に反映させている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書により説明を行っている。また、実際に重度化した場合、協力医とも相談をし、ご家族と話し合いを持ち、本人への最善の方法を検討している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、利用開始時に説明している。利用者の体調の変化に応じて、主治医と家族、事業所で方針を話し合い最良の対応を検討している。常時医療行為が必要になった場合、事業所での対応は難しい旨を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習を定期的に通っている。また、救急マニュアルや緊急時のマニュアルがあり、常に確認できる場所に設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練の実施。災害時用として発電機や非常食を設置し、災害に備えている。また、運営推進会議の中で災害時の相互協力を呼び掛けている。	消防署の協力に下、6月に日中の火災を想定した避難訓練を実施し、1月には、近隣住民も参加する夜間の火災を想定した避難訓練を予定している。地域住民の役割分担を確認し、連絡網を作成している。	地域住民の参加を得た夜間想定避難訓練を実施する意向なので、その取り組みに期待したい。また、火災以外の災害時における具体的なケアに沿った対応について話し合いが持たれるように期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに合わせた言葉掛けをし、プライドを傷つけない対応に心掛けている。排泄や入浴に関して、プライバシーに配慮した対応に心掛けている。	「おじいちゃん、おばあちゃん」は禁句としている。また、「ちゃん」付けで呼ぶことは失礼になるので指導している。記録業務は、居間の一角にある机で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で入居者様の希望や思いが表出できるよう雰囲気作りを心掛けている。また、自己決定が困難な方には選択肢を出し、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、起床時間など本人の生活習慣に合わせた対応を行っている。排泄に関しては一人ひとりの排泄パターンに合わせた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温、本人の好みに合った衣服を本人に選択して着ていただいている。外出時は本人の希望で化粧を行う場合もある。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の体調やできる力に応じて、入居者様と一緒に調理や片付けを行っている。また、入居者の好みに合わせたメニューを提供したり、行事の際にはお寿司やバイキング食などで入居者様の楽しみとなっている。	献立と食材の配達は、平日の朝・昼食のみ業者に依頼している。土日と夜は、職員の献立で食材を購入し、調理をしている。野菜を切る、盛りつける、お箸を並べるなど、一人ひとりの利用者の力に応じて支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量、水分量は個々のチェック表にて把握している。また、栄養士の立てた献立の食事を行い、栄養面に配慮している。食分量の少ない時には、本人の食べたい物を補食していただく等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立している入居者様には口腔ケアの声掛けを行っている。介助が必要な方には、歯科医の指導の元歯間ブラシの使用などで口腔ケアを行っている。定期的に義歯洗浄剤にて消毒、洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや能力に応じてトイレの促しや誘導、介助を行っている。また、オムツ等の必要性を職員間で、必要時検討している。	布の下着を着用している人や、尿取りパッドやリハビリパンツを使っている。日中は、全員トイレでの排泄を介助しているが、夜間はパッド交換を行い安全で安楽な介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳とプルーンの提供。水分を1日1500mlを目標に促している。また、食事に根菜類を取り入れるなど心掛けている。便秘時には看護師と相談し下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めず、声を掛け、希望に沿った対応にて入浴している。週2回以上入浴できるよう調整している。一人ひとりに合わせ、外出、受診の日程に合わせた対応や、好みの湯の温度等で入浴している。	希望があれば何時でも入浴できる体勢を整えている。同性介助を基本とし、順番や温度、時間など本人の意向を優先している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを崩さないよう配慮し、日中にも短時間の休息を取っていただいている。夜間に眠れない際には、ホットミルクや軽食の提供を行っている。不眠にならないよう、日中の活動を増やすよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに薬の情報が有り、薬の変更時には看護師からの申し送りや記録で職員は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好み、得意な事に注目し、役割や楽しみを持って生活できるよう、職員間で個別で検討している。また、行事などを通して気分転換ができるよう努めている。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期間は、散歩や中庭での食事、日光浴をしている。また、外出行事などで普段行けない場所へ出掛けられるよう支援している。また、希望に応じて家族と共に外出できるよう、協力を得ている。	広い中庭があるので、気候に応じて外気浴をしたり、近隣の散歩に出かけている。冬季は、「寒いので出たくない」と言われるため1号館と2号館を往復し、運動を兼ねて気分転換をしている。今年は、全員で留萌の海に出かけ、日帰りの旅を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、本人が金銭管理を行っている。また、希望があれば、買い物の代行や、近くのコンビニへ買い物同行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があった時には、電話をかけられるよう支援している。また、本人に代わって職員が家族に用事等伝えるなどしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はいつも清潔に心がけ、温度・湿度にも配慮している。入居者様の食事等の席を決め、本人の混乱やトラブルを防いでいる。フロアの壁には季節を感じ楽しめるよう、写真や掲示物を掲示している。	玄関を入ると左右に1号館と2号館があり、茶系で統一した落ち着いた設えとなっている。居間の壁面に季節の紙細工や広報誌、外出行事の写真等を飾っている。天窓から日差しが入り、ベランダから中庭を見渡せる広々とした共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士、居室の行き来があり、会話を楽しんでいる。本人の希望や気分によって一人になれる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の生活が継続できるよう、入居時に馴染みの家具や、家族の写真、仏壇を持ち込んでいる。また、本人の好みや、能力に応じて絨毯を敷く、入口にのれんをかけるなどし、本人らしい空間作りをしている。	軍服姿の夫の写真や、仏壇、家族から届いた手紙、年月を感じさせる家具やぬいぐるみ、趣味の玩具などに囲まれて生活している。家族の協力を得ながら本人らしい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安全な構造となっている。出来るだけ自立した生活が送れるよう、目印となる物を貼りつけるなど工夫している。能力に応じて、車椅子、シルパーカーを利用している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197100027		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	砂川市空知太西1条3丁目3番12号		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	平成26年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの入居者様は、2週に1度、また異常時に、協力医療機関医師の往診を受けており、事業所の看護師が中心となって、医師との連携を図り、指示や助言をいただき、入居者様の安心に繋がっている。</li> <li>・広い中庭を利用し、野菜の栽培や、花壇の手入れなど入居者様と一緒にいたり、近隣の保育所との交流の場とし七夕祭り、野菜の収穫など、入居者様も参加し楽しみの一つとなっている。</li> <li>・年間を通して四季に合わせた、装飾、行事の企画を立て、気分転換や四季を感じていただいている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197100027-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197100027-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2号館 アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の休憩室、事務所、名札の裏など、目に付く場所に掲載し、実践できるよう努力している。また、入社時に理念を話し、理解している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のゴミ拾いに参加したり、散歩時に挨拶を交わしたり交流に努めている。また、町内会長に声を掛け、事業所の行事や、避難訓練を見ていただき、交流している。近所の保育所の園児と入居者との交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内の方に参加していただき、現在の問題点や課題を報告し、理解を得ている。砂川市の看護学生やヘルパーの実習を受け入れ、認知症の人の支援や、コミュニケーションの方法を学んでいただき、認知症の人への理解に活かせるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて、入居者様の近況報告と、外部評価の結果の報告、研修や行事の報告を行い、意見交換や助言をいただき、実践に活かせるよう努力している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長、管理者が、日頃から市役所の福祉課、介護保険課へ、事業者の報告や相談を行っている。また、市役所の担当者からの通達や確認等、連絡を取っている。運営推進会議には同町内会の市議会議員にも参加していただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、夜間帯は施錠を行っているが、日中は施錠や身体拘束は行わず、外に行く際は、職員が付き添うなど、ご本人様の意思を尊重した支援に努めている。職員は、身体拘束をせず、入居者様が安全に暮らせるか、話し合い支援を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常に支援の中で、職員の入居者様への態度、言葉遣い、不適切な介助がないか、職員と話し合い、虐待防止に努めている。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年後は勉強会を行っていないが、以前行い、職員は制度の理解をしている。また、入居者様に制度の必要性があるか、話し合いが行えるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や施設見学の際に入居までの流れや、施設での生活について説明し、ご家族様の抱えている施設のイメージとの、差がないよう、ご家族様の不安や疑問等も聞き、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に、日常生活の報告やケアプランの説明時に要望、意見を聴き、対応できるよう努めている。また苦情、相談の窓口を設け、契約時に説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議や、日常の場面で、職員の意見や提案を話せる機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者は、勤務状況や意欲について把握している。また業務の負担の軽減を図れるような取り組みや、勤務希望をできる限り叶えるなどして職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧し、参加を促したり、希望者を募っている。また内部での勉強会を行い、知識や介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は同業者との交流があまりなかった為、研修会や、交流会を通じて職員のスキルアップに努めていきたい。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前より、本人、家族より情報収集を行い、本人の情報を把握し、職員と話し合い、入居時からスムーズに支援が行えるよう努めている。また、不安なく入居ができるよう、ご家族、本人とも話し合い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点で、家族の困っている事に耳を傾け、グループホームのメリット、デメリットについても説明を行っている。また、家族と一緒に支援が行えるよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していた事業所や、本人、家族からの情報をもとに、その時必要な支援を見極め支援に努めている。また、できる限り、要望に沿い以前の生活習慣が継続できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に、調理や掃除を行っている。また、本人の意向を尊重し、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を家族へ伝え、外出など安心して支援できるよう、家族、職員で話し合い、本人を支えていけるよう関係作りを築いている。また、定期受診などを家族に依頼し、日々の様子を把握していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、今までの生活が継続できるよう、家族と共に、馴染みの美容室やお店に出掛けている。また、知人の面会もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が、共有スペースに自然と集まり、話をしている。また、孤立しがちな入居者様にも進んで話掛けてくれたり、職員が間に入ったりして支援している。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者等が、転居先の関係者に入居時の情報を提供し、本人に最善のサービスが継続されるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、行動から、本人の希望、意向の把握に努め、会議等で支援法を話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活が送れるよう、本人、家族からの情報を把握し、入居後も本人らしい生活が継続できるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、連絡ノートの活用をし、職員間で情報を共有している。また、健康状態に関しては、看護師とも相談し、対応を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	見直し時期に会議を行い、今の現状とこれからの課題について、職員同士で話し合っている。本人、家族の意向も含め、その時の優先的な支援を検討し、介護計画に反映して作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化や気づきを記録し、職員同士で情報を共有し、支援や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のニーズに応じて、買い物代行・同行や、受診の付き添いの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所との交流があり、入居者様の楽しみの一つになっている。美容室の出張サービスなど利用し、入居者様が安心できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度協力医による往診を受けている。また希望に応じて、入居前からの、掛かりつけ医への受診等、家族と協力しながら、安心な医療が受けられるよう支援している。また、日常の様子は事業所の看護師が把握し、支援している。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調管理や、体調変化の際には、事業所の看護師に連絡、相談をし、指示を仰いでいる。また、事業所の看護師とは24時間連絡が取れる体制となっており、必要に応じて受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者の情報を病院側に提供している。また、管理者、看護師は、入院中の状況や病状を病院関係者と、情報交換し、退院後の支援に反映させている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書により説明を行っている。また、実際に重度化した場合、協力医とも相談をし、ご家族と話し合いを持ち、本人への最善の方法を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急講習を定期的受講している。また、救急マニュアルや緊急時のマニュアルがあり、常に確認できる場所に設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練の実施。災害時用として発電機や非常食を設置し、災害に備えている。また、運営推進会議の中で災害時の相互協力を呼び掛けている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気分を損ねないように、言葉掛けをし、プライドを守り対応を心掛けている。排泄や入浴に関して、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞けるよう、関係作りを行っている。また、自己決定が困難な方には、選択肢を出し、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣や希望を尊重し、入居者様の生活のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温、本人の好みに合った衣服を着たり、毎朝の手入れや化粧をしたりと支援を行っている。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のコミュニケーションから聞き取り、好みや希望に応じて提供している。誕生会など、本人の好きな物を食べたり食事を楽しんでいる。また、その時の体調等を考慮し、一緒に調理や片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、個々のチェック表にて把握し、不足している場合は、本人の状態に合わせ、食べたい物を提供したりと支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし行っている。介助の必要な方は、一部介助にて支援している。定期的に義歯洗浄剤にて消毒、洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表の記入をし、個々の排泄パターンを把握し、トイレ促し、誘導を行っている。また、下肢体操を取り入れたりし、失禁回数が減るよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、プルーンを提供、1日の水分量1500ccを目標に声掛けを行っている。また、食事では、食物繊維を多く摂ったり、乳製品を提供したり心掛けている。便秘時には看護師と相談し下剤の調節を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望や体調に合わせて、入浴を行っている。また異性介助を拒否される場合、交代し同性介助の支援している。週2回入浴できるよう調節し、外出、受診日に合わせた対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の、生活ベースが崩れないよう、好きな時間に、休息していただいている。夜間眠れない場合は、水分補給や軽食を提供したり、工夫を行っている。不眠にならないよう、日中の活動を増やすよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報があり、職員間で共有している。また、変更時には、看護師から申し送りや記録で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴、個々の力量に合わせ、役割や楽しみごとのある生活が送れるよう、職員間で話し合い支援している。また、行事などにも参加していただき、気分転換できるよう努めている。		

グループホームすずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事などで、普段行けない場所へ出掛けられるよう支援している。中庭を利用し、食事をしたり、日光浴をしたりと希望に沿って支援を行っている。また、本人の希望に応じて、家族と共に外出できるよう協力を得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、本人が金銭管理を行っている。また、希望があれば、買い物の代行、同行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望がある時は、電話を掛けられるよう支援を行っている。また、年賀状のやり取り等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間がいつも清潔で過ごせるよう心がけ、温度・湿度も配慮している。フロアの壁には、季節を感じてもらえるよう、装飾や写真を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が自然と集まり、楽しく会話されている。本人の希望や気分により、居室にて思い思いに過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活が継続できるよう、馴染みの家具や、写真、仏壇を持ってきていただき、本人らしく、安心できる空間作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安全な構造となっている。出来る限り、自立した生活が送れるよう、表札を貼ったりと工夫している。また、能力に応じて、車椅子、シルバーカーを利用している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん

作成日：平成 25年 12月 10日

市町村受理日：平成 26年 1月 8日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の地震、火災を想定した防火、避難訓練を日中の勤務者の少ない時間を想定などし実施しているが、今年度実施予定の夜間を想定した避難訓練をまだ実施していない。	日中に夜間を想定した避難訓練の実施をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への協力や、避難・誘導・誘導後見守りなどを依頼し、夜間避難訓練を実際の職員配置数で遂行できるように行う。</li> <li>・冬期の夜間避難訓練は、更に条件が厳しくなりますが、暖房機器等による出火を想定し、通報・初期消火・避難誘導・誘導後の入居者保護の訓練を徹底させる。</li> </ul>	4ヶ月
2	4	運営推進会議のご家族の参加は、代表者1名のみで、案内や、議事録の送付を行っていない。現在の会議の内容には、全家族の参加が必要であるか、疑問な点もある。	全家族への、議事録と会議案内の配布をし、会議への理解と会議参加への促しへ繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議日程を年度計画内で告知(奇数月の第三金曜日等)とし、ご家族様へご案内する。</li> <li>・ご家族の興味を引く内容の議題を提起しご案内する。</li> <li>・上記に対し、内部、外部から専門分野の講師を招き、公園・研修や疑似体験等を開催する。</li> </ul>	12ヶ月
3	26	日々の記録が、内容が薄く、個人の様子が記録だけでは見えにくく、計画の評価と、次回の計画に繋がりにくい状況。	職員への意識付けに工夫をし、介護計画と連動した記録を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画作成者会議の開催にて記録の書き方について検討し、計画の評価や、次回の計画へ繋がる記録を浸透させる。</li> <li>・誰が読んでも生活の様子が分かる記録を浸透させる。</li> </ul>	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。